

国語科学習指導案

一 単元名 論点を捉えてく話し合いの「技」を身に付けるく

題材名 「グループ・ディスカッションで互いの考えをまとめよう」

学級	一年二組
場所	一年二組教室
授業者	加藤 祐輝

二 単元の捉え

本単元は、次期学習指導要領にそって指導を計画する。

【「知識及び技能」 (2) 情報の扱い方に関する事項】

◎イ 比較や分類、関係付けなどの情報の整理の仕方、引用の仕方や出典の示し方について理解を深め、それらを使うこと。 【情報の整理】

【「思考力、判断力、表現力等」 A 話すこと・聞くこと】

○ア 目的や場面に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を整理し、伝え合う内容を検討すること。 【話題の設定、情報の収集、内容の検討】

○ウ 相手の反応を踏まえながら、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫すること。 【表現、共有】

○エ 必要に応じて記録したり質問したりしながら話の内容を捉え、共通点や相違点などを踏まえて、自分の考えをまとめること。 【構造と内容の把握、精査・解釈、考えの形成、共有】

◎オ 話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結び付けて考えをまとめること。 【話し合いの進め方の検討、考えの形成、共有】

本単元の言語活動は、話題や展開から逸れることなく話し合い、互いの発言を結び付けながらよりよい考えをまとめる力を付けることをねらい、グループ・ディスカッションを位置付けた。第一学年『好きなもの』を紹介しよう』では、考えや根拠が明確になるように中心的な部分と付加的な部分の関係に注意しながら、話の構成を考えたり、話す速度や間、語句の選択に留意しながら分かりやすく伝えたりするという学習を行った。これにより、話し手としての基本的な力が身に付いたが、一方的なスピーチでは、相手の反応に応じながら話すまでには至っていない。また、聞き手としても話し手の話を聞くのみに留まっている。そこで、本単元では、聞き手を意識した「話し方」及び自分の考えと比較しながら聞く「聞き方」を身に付けるとともに、目的に沿って互いの考えを結び付け考えをまとめていく「話し合い」の方法と目的を理解させる。グループ・ディスカッションの特徴として、自分の意見が反映されやすいということが挙げられる。第一学年で、このような実感を味わわせ、今後の話し合い活動に生かしていく。第二学年「話し合って考えを広げよう パネルディスカッションをする」では、発言の内容を取り上げるだけでなく、互いの置かれた立場や考えが出された背景を尊重しながら、発言を検討して一定の結論に向かう中で、自分の考えを広げ深められるようにする。さらに、第三学年「話し合って提案をまとめよう 課題解決に向けて会議を開く」では、情報の交換や目的に照らした取捨選択などの意見の調整を通して、建設的な意見を述べ合いながら新たな価値を創造したり、一定の合意形成をして物事を決めたりする力を身に付けたい。以上を踏まえて、話し手の話す内容を認識し、自分の考えと比べるという思考・判断を経て、自分の考えを表現しながら考えをまとめていくというひとまとまりの活動を通して、その過程で得た「学び」を自分の生活や社会で活用することができる。「社会で生きる力」として育成することにつなげていく。

本単元は、「A話すこと・聞くこと オ【話し合いの進め方の検討、考えの形成、共有】」に重点を置いて全五時間で構成した。単元の導入では、これまでの話し合い学習を振り返りながら、よい話し合いとは、どんな条件やルールがあるのか考える活動を通して、誰もが主体的に話し合いに参加する必要があることに気付かせ、評価立札を用いることの効果を理解できるようにする。また、話し合いのモデルとして、三年生の話し合い活動の様子を撮影したのを見せ、話し合いのイメージをつかませる。第二時では、模擬実践を行い、ディスカッションにおけるそれぞれの役割や情報の聞き取り方、説得力のある発言をするために必要なことなどをつかませるとともに、課題や留意点をおさえ、ディスカッションに臨む足掛かりとする。第三時では、「学級レクの内容を決める」という日常に直結する話題を提示し、ディスカッションをすることの必然性をもたせ、自分の考えの形成を図る。「全員で行える活動」「自学級の実態に合うもの」「担任の先生も納得する方法」といった観点から考えを形成する情報を整理し、伝える内容を検討する時間とする。そして、第一時から第三時までの学習を踏まえ、第四時では実際にグループ・ディスカッションを行い、第三時でもった自分の考えが、話し合いを経てどのように広げ深まったかを実感できるようにする。そして、単元の終末では、それぞれのグループにおける話し合いの結果をまとめ、報告会という形で提案し合い、学級レクの内容を決定するとともに単元全体を振り返る活動を設ける。このように、話し手、聞き手としての思考力、判断力、表現力を身に付けながら、言葉を通じて伝え合う力を養い、社会で生きる力の育成につなげていきたい。

三 生徒の実態

① 「話すこと・聞くこと」領域における前単元の実態とレディネステストの結果から

前単元の実態	A評価	B評価	C評価
①話をするとき、相手の反応を見ながら話をしている。	15.6%	65.7%	18.7%
②話を聞くとき、質問をしたり、共通点や相違点を考えたりしている。	25.0%	43.8%	31.2%
レディネステスト	正答率	無回答率	誤答率
③話し合いの話題や方向を捉える	62.5%	0%	37.5%

前単元における生徒の実態から、話し手として「適切に表現する力」が、聞き手として「話し手の話す内容を思考・判断する力」の定着が弱いことが明らかとなった。また、話し合うことに関する③の項目では、四割近くの生徒が誤った解答をしている。この結果から、話し合いの目的や論点を明確に捉えることができていないと考えられる。そのため、話し手としては、聞き手の反応を見ながら適切に表現を工夫する力を、聞き手としては意見の共通点や相違点を比較しながら聞き取る力を身に付けさせ、論点からずれることなく話し合いを行う技を身に付けさせる。

②個に応じた手立て

〈つまずきに対処する手立て 抽出生A〉
 話題や展開を捉えて、どのように発言したらよいか分からない生徒がいると考えられる。そこで、次のような手立てを講じる。

- ・自分の考えをあらかじめ箇条書きで表し、話し手の考えと比較しやすくしておく。
- ・音声言語の特質である「形に残らない」ことを解消するため、評価立札を用い、即時評価しながら自分の立場を常に明らかにさせる。

↓まずは話し手の考えとの共通点がないかを考えさせ、展開に沿った発言ができるようにする。

〈得意を伸ばす手立て 抽出生B〉

本時における得意を伸ばす生徒とは、司会者に任せただけでなく、自ら話題を意識しながらその経過を捉えて話したり聞いたりすることができる生徒である。そのような生徒には、次のような話型を示す。

- ・「〇さんと△さんの意見の共通点は〓で、相違点は〓ということですね。この相違点について、みなさんはどう思いますか。」

- ↓自分と他者の考えを結び付けるだけでなく、他者と他者の考えを結び付けた発言を行う。
- ・「少し話題が逸れているように思います、もう一度話し合いの目的を考えてみましょう。」
- ↓話し合いの目的から逸れることなく、目指す到達点を常に意識した発言を行う。

四 研究内容と本時とのかかわり

研究内容2 見方・考え方を働かせながら、自分の考えを広げ深める授業づくり

(二) 仲間との対話を通して、自分の考えを広げ深める言語活動の設定

本時における見方とは、話し手の発言内容を正確に捉えることであり、考え方とは、聞き取った内容を自分の考えと比較したり、互いの発言を結び付けたりする点である。本時は話し合い活動を主軸としているため、主体的で対話的な学びが必然的に成立する。そのため、考えの交流により、新たな考えが付加されたり、変容が見られたりと、話し合い活動が進むにつれて、自分の考えが広げ深められる。具体的な手立てとして、「評価立札」を用いる。これは、「共通点がある」「相違点がある」「質問がある」「その他」の言葉が記載される四面の立札を、話し手の考えに対し、聞き手が意思表示を行うためのものである。この立札を用いるねらいは三点あり、一点目は聞き手の反応を可視化することにより、話し手がそれに応じて語句を補足したり、言い直したりしながら話すことができる点である。二点目は話し手と自分の考えと比較することにより、聞き手が必然的に話し合いに参加することができる点であり、見方・考え方を広げ深めることに役立てられる点である。三点目は司会者の円滑な進行を促す点にある。話し合いが停滞する場面でも、この立札があることにより、聞き手の中から同意者、質問者などを見分けやすくすることができ、互いの発言を結び付けながら、考えをまとめていくことができる。この手立てを踏まえ、自分の考えを広げ深めるグループ・ディスカッションを行う。

研究内容3 学習評価の在り方

(二) 自分の考えの変容や考えの深まりを実感する個人評価

本時では、終末の振り返りを通して、自分の考えの変容や深まりを生徒自身が実感できるようにする。そのため、次のような思考の型を提示し、自らの学びを整理できるようにする。

一段落目：話し合いの際に、話し手、聞き手、司会者としてできるようにしたことは何か。
 二段落目：前時までにもった自分の考えがどのように広げ深まったか。また、その変化を生み出したのは、仲間のどのような発言からか。

三段落目：本時の学習を通して、日常や社会生活でどのように生かしていくか。

五 本時のねらい

相手の反応を踏まえながら表現を工夫したり、自分の考えとの共通点や相違点を踏まえながらまとめたりするグループ・ディスカッションを通して、複数で意見を出し合うことで自分とは違った見方や考え方があふることにより、互いの発言を結び付けながら考えを広く深めることができる。

六 本時の評価規準

ディスカッションを学ぶ意義を理解し、自分に身に付いた話し合いの技を実感すると共に、話し合いのよつて広げ深まった自分の見方・考え方をまとめに書き表している。

七 本時の展開（４／５時）

現行【A 才 話し合うこと】

<p>学習内容</p>	<p>主な学習活動</p>	<p>予想されるつまずきと指導・援助 ◎つまずき ○全体指導 ◇個への手立て ☆得意を伸ばす手立て</p>
<p>○本時の見通しをもつ。</p>	<p>①前時までの学習を振り返り、グループ・ディスカッションの目的・話題・注意点・役割を確認する。（五分） 【話題】「絆を深める学級レク」を話し合って決めよう。 ②本時の課題を提示する。 【話し合いの技を生かしながら、お互いの考えを結び付けよう。】</p>	
<p>○グループ・ディスカッションを行う。</p>	<p>③グループごとにディスカッションを行う。（二十五分） 【話し手 聞き手の反応を踏まえて表現を工夫する技】 ・意見や立場、その根拠となる事実や体験を簡潔に述べる。 ・評価立札を見ながら聞き手の反応をうかがい、自分の考えを分かりやすく伝えるように表現を工夫する。 ・二組は体育祭でも優勝ができたように、みんなで一つにまとめる力があります。だから……」「つまり言い換えると……」</p>	<p>◎話題や展開に合わせた発言や質問ができない。 ○話し手としての技、聞き手としての技を確認する。</p>
<p>○グループとしての意見をまとめる。</p>	<p>【聞き手 自分の考えとの共通点、相違点をまとめる技】 ・ノートを用い、必要な情報を書き留める。話し手の考えに対して、常に評価立札を使い、自分の立場や考えを可視化しながら、自分の考えとの共通点・相違点を明らかにする。 ・「……という点は共通しているけど、二組の実態から考えると……」「みんなが楽しむためにはどんなルールがあるかな？」 【司会 互いの発言を結び付ける技】 ・仲間の考えを擦り合わせながら、観点を踏まえてみんなが納得できる活動にするという目的で話し合っていることを常に念頭に置き進行する。 ・「話が逸れているので、話し合いの目的に戻ります。」「……という考えが多いですが、○○さんはどう思いますか。」 ④話し合いの結果をまとめる。（十分） ・結論が出た場合は、その内容と根拠を、解決していない場合は、問題点をまとめる。それぞれの意見を整理・比較し、より説得力のある意見を選んだり、すぐれたところを合わせたりしてよりよい結論にまとめる。</p>	<p>◇話し手として、視線を仲間の方に向けたり、評価立札を確認したりしながら話すように促す。 ◇聞き手として、事前に自分の意見を箇条書きなどで見やすくまとめさせておき、比較しやすくさせる。 ◇評価立札をすぐ使うように促し、常に自分の立場が明らかとなるように可視化させる。 ☆自分と他者の考えを結び付けるだけでなく、他者と他者の考えも結び付けながら、目的に沿った話の展開を生み出させるようにする。</p>
<p>○まとめを書き、自分の考えの深まりを実感する。</p>	<p>⑤ディスカッションを通し、話し合いで身に付いた技と広げ深まった自分の考えをまとめる。（十分） 少人数での話し合いは、全体で話し合うよりも自分の意見が反映されることが分かった。この学習を通し、今までは仲間の意見を聞き流すだけだったが、自分の考えと比べながら聞くことができるようになり、意見を結び付けながら考えることでより納得できる結論を導き出すことができた。 私は、最初はみんなで活動できるドッチボールがいいと考えていたが、○○さんの「時間が限られているから、ボールに触れない仲間がいるのではないか。ボールを二つ使った方がいい。」という意見を聞いて、自分には無かった考えを知ることができた。今回の話し合いで学んだ技を生かして、文化集会の合唱曲決めなどをしていきたい。</p>	

八 学びの地図 国語科 話すこと・聞くこと領域

新しい時代に必要となる資質や能力

□国語科において

- ・社会的な事柄を含む広い範囲から課題を見付け、情報や情報手段を主体的に選択し、多角的・多面的に精査し、活用する力。
- ・感じたり想像したりしたことを、豊かに表現する力。 ・相手や時と場合に応じた適切な言葉遣いで表現する力。
- ・相手意識をもって伝えたい事柄を明確にし、資料や機器などを効果的に使って、分かりやすく伝える力。

学び方

□情報の収集、内容の検討

- ・観点を立てて、情報を収集し、整理する。
- ・情報を集め、考えをまとめる。
- ・聞き手の知りたいことを想定して情報を集める。

□考えの形成、表現(話すこと)

- ・聞き手の立場になって、順序や構成、声の大きさ、早さ、発音、視線、間、表情や身振り手振りを工夫する。
- ・聞き手の反応を踏まえながら話す。
- ・聞き手の関心を引く提案をする。
- ・資料や機器を活用し、写真や図表などを効果的に組み合わせて説明する。

□精査・解釈、考えの形成(聞くこと)

- ・情報を的確に聞き取り、番号や記号などを適切に用いてメモを取る。
- ・相手の発言正確に理解する。
- ・自分の考えと比較して聞く。
- ・要点を整理しながら、共通点と相違点を聞き分けながら聞く。
- ・整理してメモを取る。
- ・評価しながら聞く。

□話し合いの進め方の検討、考えの形成(話し合うこと)

- ・話し合いの話題や方向を捉えて話し合う。
- ・構成や内容を推敲し、主張を明確に伝える。
- ・話し合いにおける司会の進め方を知り、実践する。

学ぶ内容

□会議

第3学年 話し合って提案をまとめよう

- ・話し合いにおける司会の役割(発展・統合・合意形成)
- ・話し合いの流れを捉えながら話したり聞いたりする。

□パネルディスカッション

第2学年 話し合って考えを広げよう

- ・他の意見や考えを受け入れるための話し方。 ・司会・パネリスト・フロアの役割。
- ・反論の想定。 ・各立場の意見を的確に要約し、対立点や相違点を明らかにして司会をする。

□プレゼンテーション

第2学年 魅力的な提案をしよう

- ・得た情報を相手や目的に沿って選択し、組み立てを考える。
- ・資料や機器などを効果的に活用して分かりやすく説明する。

□ポスターセッション

第1学年 一年間の学びを振り返ろう

- ・聞き手の興味を引く発表。 ・資料の示し方や、想定される質問への回答。

□グループ・ディスカッション

第1学年 話題や方向を捉えて話し合おう

- ・意見と根拠を整理し、話題や方向を捉えて話したり、相手の発言を注意して聞いたりする。

□スピーチ

第1学年 「好きなもの」を紹介しよう

- ・聞き手に分かりやすいスピーチをするための工夫。(声の大きさ、早さ、発音、視線、間、表情や身振り手振りの工夫)

第3学年 「社会との関わりを伝えよう」

- ・時間配分や相手を意識した話し方。 ・相手を引き付ける話の構成や効果的な資料の提示。

育成すべき資質・能力

【学びに向かう力、人間性等】

- 言葉を通じて伝え合うよさを味わうとともに、言語感覚を豊かにし、国語を尊重してその能力の向上を図る態度。

【思考力、判断力、表現力等】

- 創作的・論理的思考や感性・情緒を働かせて思考力や想像力を豊かにし、社会生活における人とのかかわりの中で、言葉で自分の思いや考えを深める力。
- ・考えを形成し深める力
- ・情報を多角的・多面的に精査し、構造化する力
- ・構成・表現形式を評価する力
- ・感じたり想像したりしたことを言葉にする力、
- ・言葉を通じて伝え合う力

【知識及び技能】

- 社会生活に必要な国語の特質について理解し、適切に使うための知識及び技能。
- ・言葉の働きや役割に関する理解
- ・言葉の特徴やきまりに関する理解と使い分け
- ・言葉の使い方に関する理解と使い分け
- ・伝統的な言語文化に関する理解
- ・情報活用に関する知識及び技能

小学校で身に付けている知識及び技能

課題設定や取材に関する知識及び技能

- ・考えたことや伝えたいことから話題を決め、必要な事柄について収集した知識や情報を関連付けること。

話すことに関する知識及び技能

- ・目的や意図に応じて事柄が明確に伝わるように、理由や事例を挙げるなどして話の構成を工夫しながら、場に応じた適切な言葉遣いで話すこと。
- ・共通語と方言の違いを理解し、必要に応じて共通語で話すこと。

聞くことに関する知識及び技能

- ・話の中心や話し手の意図を捉えながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめること。

話し合うことに関する知識及び技能

- ・互いの考えの共通点や相違点を考え、互いの立場や意図をはっきりさせながら、計画的に話す合うこと。

九 単元指導計画（全5時間）

(一) 目標

<p>【学びに向かう力、人間性等】</p>	<p>ア 目的や場面に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を整理し、伝え合う内容を検討すること。 【話題の設定、情報の収集、内容の検討】</p> <p>ウ 相手の反応を踏まえながら、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫すること。 【表現、共有】</p> <p>エ 必要に応じて記録したり質問したりしながら話の内容を捉え、共通点や相違点などを踏まえて、自分の考えをまとめること。 【構造と内容の把握、精査・解釈】</p> <p>オ 話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結び付けて考えをまとめること。 【話し合いの進め方の検討、考えの形成、共有】</p> <p>イ 比較や分類、関係付けなどの情報の整理の仕方、引用の仕方や出典の示し方について理解を深め、それらを使うこと。 【情報の整理】</p>	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活で課題となっていて、意見を持ち、協力して意見交換をすることができる。 日常生活の中から話題を決め、話したり話し合ったりするための材料を検討しながら集めることができる。 相手の反応に注意しながら、わかりやすく伝わるように適切に表現できる。 必要な情報はメモを取りながら、自分の考えと比べて聞き、考えをまとめることができる。 話し合いの話題や方向をとらえて、目的に沿って話したり、相手の発言を注意して聞いたたりして、自分の考えをまとめることができる。 自分の考えと他者の考えを比較したり、関係付けたりしながら話し合いを進めることができる。
-----------------------	--	--

(二) 指導計画

時	ねらい（◎は学習課題）	評価規準・評価方法
1	<p>◎ これまでの話し合い学習を振り返る活動を通して、話し手や聞き手の参加態度の大切さに気付き、よい話し合いの条件やルールについて積極的に考えることができる。</p> <p>◎ よい話し合いとは、どんな条件やルールがあるだろう。</p>	<p>話し合い学習の見通しをもち、よい話し合いの条件やルールについて積極的に考えている。 （まとめの記述） 【現行】ア 話題設定 【次期】ア 話題の設定</p>
2	<p>◎ グループ・ディスカッションのミニ実践を通して、その方法や役割分担を知り、説得力のある発言をするためには、自分の意見とその根拠を伝えるとともに、他者の考えとの共通点や相違点などを比較しながら聞く必要があると理解することができる。</p> <p>◎ グループ・ディスカッションのミニ実践から課題と留意点を考えよう。</p>	<p>グループ・ディスカッションのミニ実践を通して、その方法や役割分担を知り、課題と留意点を考えている。 （話し合いの様子、まとめの記述） 【現行】エ 聞くこと 【次期】エ 構造と内容の把握、精査・解釈</p>
3	<p>◎ 話題に対する自分の考えをもつ活動を通し、説得力のある発言をするためには、考えのほかに支えとなる根拠が必要に気付き、話題に対する自分の考えを形成することができる。</p> <p>◎ 話題に対して説得力のある発言にするための、自分の考えを書こう。</p>	<p>話題に対して説得力のある発言をするための自分の考えをまとめている。 （ノート・メモ） 【現行】ウ 話すこと 【次期】ウ 表現、共有</p>
4 本時	<p>◎ 相手の反応を踏まえながら表現を工夫したり、自分の考えとの共通点や相違点を踏まえながらまとめたりするグループ・ディスカッションを通して、複数で意見を出し合うことで自分とは違った見方や考え方があり、複数で意見を出し合うことで自分とは違った考えを広げ深めることができる。</p> <p>◎ 話し合いの技を生かしながら、お互いの考えを結び付けよう。</p>	<p>グループ・ディスカッションを通して、説得力のある話し方や情報の聞き方を理解し、話題の内容を踏まえて発言・質問している。 （発言、まとめの記述） 【現行】オ 話し合うこと 【次期】オ 話し合いの進め方の検討、考えの形成、共有</p>
5	<p>◎ グループ・ディスカッションの学習を振り返り、課題点と目標を考えよう。</p>	<p>さらによりよい話し合いにするために、報告会と振り返りの活動を通して、課題点と目標を考えている。 （まとめの記述） 【現行】オ 話し合うこと 【次期】オ 話し合いの進め方の検討、考えの形成、共有</p>

